福祉部の使命・役割を教えてください！

福祉部長　加藤一志

✧ 福祉部は、地域福祉グループ（９人）、介護保険・障がいグループ（１０人）、福祉まるごと相談グループ（９人）、生涯現役まちづくりグループ（４人）、保健福祉グループ（１４人）の５グループで構成し、「地域福祉に関すること」「生活困窮者の自立支援に関すること」「介護保険に関すること」「障害者福祉・母子福祉に関すること」「福祉に関する相談及び支援の総合調整に関すること」「生涯現役のまちづくりに関すること」「認知症予防に関すること」「健康増進に関すること」「母子保健に関すること」「子どもの発達に関すること」「予防接種に関すること」などに取り組んでいます。

✧ 福祉部は、市民のみなさまの「**ふ**だんの**く**らしを**し**あわせにする」ためのお手伝いをします。子どもの健やかな成長、そして、生涯にわたる生活の安定をめざして、乳幼児から高齢者の保健福祉の増進を図るとともに、高齢になっても、障がいがあっても尊厳を持って暮らし続けられるよう応援します。

平成28年度上半期の成果・課題を教えてください！

✧ 認知症予防のためには、街に出て歩くことがとても効果的です。多くの方に健康自生地を訪れていただけるよう、ホコタッチのポイント制度を開始しました。

✧ また、新たな社会資源として高浜市社会福祉協議会が地域共生型福祉施設「あっぽ」を開設しました。この「あっぽ」は、認知症グループホームを中心に、子育て支援センターや交流スペースなどを併設した多機能型の施設です。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

平成28年度下半期に向けて、市民の皆さんへ一言メッセージを！

✧ 福祉のワンストップ拠点としてスタートしたいきいき広場には、平成２９年１月から教育委員会とこども未来部が加わり、産前産後から始まり、就園、就学と続く子どもたちの成長に対応した新たな機能が加わります。総合相談窓口としてリニューアルするいきいき広場で、市民の皆さんの期待に応えていきます。

■ 編集・発行 ■

高浜市役所 企画部 総合政策グループ

TEL 0566-52-1111（内線 365）　FAX 0566-52-1110

E-mail seisaku@city.takahama.lg.jp

発行年月 平成 28 年 10 月

「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」をめざして

平成28年度

高浜市では、こんなことに力を入れて取り組みます！

福祉部長の実行宣言！

【上半期の振り返り＆下半期のアクション】

✧ 高浜市では、「住んでよかった！」「いつまでも住み続けたい！」と思えるまちを目指し、行政だけでなく、市民の皆さんとともに、みんなで力を合わせてまちづくりに取り組んでいくことを基本姿勢としています。

✧ まちづくりの第一歩は、まちの課題を知ること、情報を共有することから始まります。そこで「今、高浜市ではどんなことが課題になっているのか」「そのために、市役所ではこの１年間で、どんなことを重点的に取り組んでいこうと考えているのか」といった取組項目や推進の決意を「〇〇部長の実行宣言」として部局ごとにとりまとめ、４月に公表しました。

✧ 今回は、上半期（４～９月）の取組状況と、上半期の成果・課題を踏まえた下半期（10～３月）の具体的なアクションについて、紹介します。

平成28年度　福祉部では、こんなことに力を入れて取り組みます！【上半期の取組状況と下半期のアクション】

アクション1　認知症の方や家族を支える環境づくりを行います！

【担当　福祉まるごと相談グループ】

認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続けるためには、地域や市民の方の理解が必要です。認知症の方やその家族の方が、地域の人や専門家と情報を共有し、お互いを理解し合う場所が認知症カフェです。認知症カフェをとおして、認知症の方がより良い生活が送れるよう環境づくりを行っていきます。

具体的には…【計画と実行状況】

- ✧ いきいき広場で実施する「昭和で元気になるカフェ」をサポートし、保健師などの専門職が健康チェックや認知症に関する相談を行います。　5月までに実施　**4月完了**
- ✧ 社会福祉協議会が開設する地域共生型福祉施設（通称名あっぽ）において、認知症カフェを実施します。　7月までに実施　**6月完了**

上半期を振り返って【成果・課題】

- ✧ この４月から「昭和で元気になるカフェ」、６月からは地域共生型施設あっぽで「よってこカフェ」がオープンしました。地域包括支援センターの職員もカフェに参加し、認知症の方や地域の方々と楽しい集いの場をつくることができました。

下半期の具体的なアクション

- ✧ 認知症の方の生きがいづくりとして、希望される方には運営に参加いただけるような仕組みを作ります。　平成29年3月までに実施
- ✧ 「昭和で元気になるカフェ」及び「よってこカフェ」の取組みを多くの方に知っていただけるよう広報していきます。　平成29年3月までに実施

アクション2　未来を担う子どもたちの健やかな成長を応援します！

【担当　地域福祉グループ
介護保険・障がいグループ】

今後の少子高齢化の進展に伴い、生産年齢人口が減少に転じることが予想されています。高浜市の未来を担う全ての子どもたちが、その生まれ育った環境に左右されることなく健やかに成長していけるよう、地域の方々や関係団体、学校等と一体となって、小学校高学年から高等学校卒業まで、子どもたちの成長段階に即した切れ目のない支援を実施していきます。

具体的には…【計画と実行状況】

- ✧ 子ども健全育成支援員を増員します。　4月までに実施　**4月完了**
- ✧ 高校中退防止の取組みを実施します。　4月までに実施　**4月完了**
- ✧ 地域との情報共有、連携を強化するための「子ども貧困対策会議」を立ち上げます。　6月までに実施　**6月完了**
- ✧ ひとり親家庭の小学生に対する学習等支援事業を実施します。　6月までに実施　**6月完了**

第６次高浜市総合計画　平成 28 年度版アクションプラン
No.44「生活困窮者自立支援事業」

上半期を振り返って【成果・課題】

- ✧ 学習等支援事業を、高校生・ひとり親家庭の小学生にまで拡大して、子どもたちの成長段階に即した切れ目のない支援を展開しています。
- ✧ 「こども貧困対策会議」において、子どもたちのために真に必要なことをしっかりと見極めながら、市の将来を担う子どもたちを地域で一体となって育てる体制整備に努めていきます。

下半期の具体的なアクション

- ✧ 第２回「こども貧困対策会議」を開催し、現在抱えている課題に対する対応方策を検討します。　10月までに実施
- ✧ 課題を抱えた子ども・若者の現状等について、地域の方々の理解を深めるための公開講座・講習会を実施します。　12月までに実施

アクション3　生涯現役のまちづくりを進めます！

【担当　生涯現役まちづくりグループ】

高齢者の自宅での閉じこもりは、心身の虚弱化を招き、生きがいの喪失にもつながります。外出して人と交流し、健康に生活するための仕組みづくりとして、市では健康自生地の設置を進めています。

本年度は、健康自生地に出かけ活動することが、介護予防や認知症予防にどの程度効果があるのかを検証するため、ホコタッチを活用したデータ分析の仕組みを作ります。また、市民の方が健康自生地で活動量計をタッチしたくなるような取組みも行っていきます。

具体的には…【計画と実行状況】

- ✧ すべての健康自生地にホコタッチを設置します。　9月までに実施　**順調**
- ✧ 多くの方がホコタッチにタッチしたくなる仕組みを作ります。　9月までに実施　**9月完了**

第６次高浜市総合計画　平成 28 年度版アクションプラン
No.48「生涯現役のまちづくり事業」

上半期を振り返って【成果・課題】

- ✧ ホコタッチを使い、健康自生地へ出かけたくなる仕組み（訪問ポイントを付与）ができたため、今後、その仕組みや散歩コースの紹介などにより、積極的に外出し、歩いてもらえるようＰＲしていきます。

下半期の具体的なアクション

- ✧ １１月８日、２５日に、吉浜地区の健康自生地を巡る「健康自生地ウォーキングツアー」を実施します。11月までに実施
- ✧ でいでーるで、学区ごとの散歩モデルコースを紹介していきます。　平成29年3月までに実施

アクション4　妊娠期からの切れ目のない支援を行います！

【担当　保健福祉グループ】

核家族化や地域の結びつきの希薄化などにより、育児不安や育児負担を感じる妊産婦やその家族が増えています。身近な場所で妊娠期からの切れ目のない支援が必要です。いきいき広場の子育て世代包括支援センターは、妊娠から子育て期における総合相談窓口として、こども発達センターと共に子育て家庭を応援します。

具体的には…【計画と実行状況】

- ✧ 母子健康手帳の集団交付の機会を増やし、妊婦がマイ保健師や助産師に気軽に相談できる体制を作ります。　4月までに実施　**4月完了**
- ✧ 子育て世代包括支援センターに新たに助産師を配置し、産前産後の相談支援体制の充実を図ります。　4月までに実施　**4月完了**
- ✧ 妊産婦の不安感や孤立感の解消に向け、支援が必要な人をサービス(産前産後サポート、産後ケア入院)につなげていきます。　平成29年3月までに実施　**順調**

上半期を振り返って【成果・課題】

- ✧ 母子健康手帳交付時から助産師等の専門職に相談できる体制を作り、支援が必要な人にはサービス(産前産後サポート事業等)につなげ、育児不安の解消につながっています。

下半期の具体的なアクション

- ✧ 母子健康手帳の集団交付の毎週実施により、妊婦の方が助産師やマイ保健師に相談しやすい環境を作ります。　平成29年3月までに実施
- ✧ 助産師が初めての出産を終えたママ(産後 2～4 週後)へ電話し、希望者には家庭訪問を行うことにより、支援の充実を図ります。　平成29年3月までに実施